

マッチングアプリ
アンケート分析基準・判定ルール

集計期間: 2026年9月
作成日: 2026年10月8日

1. 概要

マッチングアプリに関する自由記述回答を、回答内容に応じて一定の基準で分類・集計するためのルールを定めたものとする。今回の800人アンケートで作成した分類基準を、今後の新しいアンケートデータ収集時にも適応できるよう、分類項目の定義、当てはまる例と除外例、項目間の協会、複数分類の扱い、集計方法を整理する。

分類対象: 回答者の自由記述「おすすめする理由」が該当
1人の回答者につき自由記述1件を、1つの判定単位として扱う

- ・1つの回答に複数の異なる理由が含まれている場合、各項目に重複して計上
- ・1つの回答で同じ理由を複数回述べている場合は、1件として扱う

2. 分類項目の定義と分類例

① 実際に出会えた・交際につながった

【定義】回答者自身の具体的な結果・経験。実際にマッチングした、会った、交際した、恋人ができた、結婚した等。

実際に起きた結果やアプリを通して得た経験を理由としてるかを基準とする。可能性・期待だけなら該当しない

【当てはまる例】

「実際にマッチングした人と会えた」
「このアプリで恋人ができた／結婚した」
「実際に何人かと会えた」

【除外例】

「マッチングしやすい」
「出会える人が多い」
「理想の人と出会えそう」

② 会員数・出会いの機会

【定義】相手候補の母数、利用者・登録者の多さ、地方でのマッチング機会等。

相手の数や出会いの機会を理由として言及しているものが対象。実体験は①に振り分ける。そのほかマッチングアプリのスペックや会員の特性について言及している理由は除外する。

【当てはまる例】

「会員数が多い」
「登録している人が多い」
「地方でも相手が見つかる」
「たくさんの人とマッチングできる」

【除外例】

「実際に恋人ができた」
「趣味の合う人を探せる」
「真剣な人が多い」
「検索しやすい」

③価値観・趣味・相性

【定義】価値観や性格、好みなどの人柄や、趣味など相手との共通点や相性等

相手地の中身や共通点の一致など、出会った相手との相性が理由なら該当。その機能自体を評価するキーワードが含まれている場合は⑤にも併記することとする。利用目的に言及している理由は④に分類する。

【当てはまる例】

「趣味の合う人を探せる」
「価値観の合う人と出会える」
「性格の合う相手が見つかる」
「共通の趣味がある人と出会える」

【除外例】

「検索機能が便利」
「会員数が多い」
「同年代が多い」
「結婚を考えている人が多い」

④真剣度・目的の合いやすさ

【定義】恋活、婚活、再婚、真剣交際などの目的や、利用者の真剣度等。

利用者の目的や真剣度が理由なら該当。マッチング結果なら①、年齢については⑧に分類。

【当てはまる例】

「真剣に恋人を探している人が多い」
「結婚を考えている人が集まっている」
「遊び目的の人が少ない」
「同じ目的の人と出会いやすい」

【除外例】

「実際に結婚できた」

「30代の人が多い」

⑤使いやすさ・機能・操作性

【定義】プロフィールや検索、マッチング、メッセージ、独自コンテンツを含むサービス全体の機能や使いやすさ等。

機能・操作そのものが理由なら該当する。機能によって生じる相性・趣味のマッチメリットが明記されている場合は、③・⑤の複数分類を可とする。

【当てはまる例】

「操作が簡単」

「検索機能が使いやすい」

「プロフィールを詳しく設定できる」

「診断機能が役に立つ」

⑥安心・安全

【定義】本人確認、公的書類による証明、セーフティセンターや監視・サポート体制、サクラ・業者対策などの安全性や信頼性に関する事柄。

運営側の安全対策や利用者層の安全性そのものが理由の記述が該当。知名度や周囲の理由は⑦に分類することで線引きとする。

【当てはまる例】

「本人確認がある」

「24時間監視がある」

「怪しい人が少ない」

「安心して使える」

【除外例】

「有名なので安心」

「友達も使っている」

「遊びの人が少ない」

⑦知名度・周りの利用者

【定義】サービスの知名度、広告、友人、知人の利用や周囲の成功体験等。

【当てはまる例】

「有名だから」

「友達も使っている」

「周りで利用して、成功している人がいる」

「友人にすすめられた」

【除外例】

「会員数が多い」
「本人確認がある」
「実際に恋人ができた」

⑧年齢・年代

【定義】利用者の年齢層・同年代・会員登録の年齢制限など、年齢層のものに関するもの

年齢そのものが理由なら該当するが、会員数の多さや真剣度にまで及んでいる場合は、複数の各項目に計上

【当てはまる例】

「同世代の人が多い」
「30代以上なので使いやすい」
「自分と近い年齢の人と出会える」
「年齢制限がある」

【除外例】

「結婚に真剣な人が多い」
「同じ趣味の人が多い」

⑨月額料金のコスパ

【定義】無料、有料、月額料金、安さ、費用対効果など金銭面から評価した記述

料金やコストパフォーマンスが直接的なアプリの選択理由となっているものが該当する。

【当てはまる例】

「無料で使える」
「料金が安い」
「コスパが良い」
「無料でも十分使える」

3.混同しやすいパターンと境界ルール

3-1【①実際に出会えた・交際につながった】と【②出会いの機会】

「マッチングした人と実際に会った」「恋人ができた」→①
「マッチングしやすい」「出会える人が多い」→②

3-2【③価値観・趣味・相性】と【⑤使いやすさ・機能・操作性】

「趣味の合う人を探せる」→③
「趣味で検索できる」→⑤

「趣味で検索し、相性の合う人を探せる」→③+⑤

3-3【④真剣度・目的の合いやすさ】と【①実際に出会えた・交際につながった】

「結婚を考えている人が多い」→④

「このアプリで結婚した」→①

3-4【⑥安心・安全】と【⑦知名度・周りの利用者】

「本人確認があるので安心」→⑥

「友人も使っているので安心」→⑦

※安全対策が具体的に理由として書かれていれば⑥に分類

3-5【⑧年齢・年代】と【②会員数・出会いの機会】

「同年代が多い」→⑧

「会員数が多い」→②

4.複数分類のルール

1つの回答に、互いに異なる理由が複数含まれている場合は、該当するすべての分類に1件ずつ計上する。

一方、同じ項目に分類される理由を1回答内で複数回述べている場合は、複数計上ではなく1件として扱う。

【具体例】

「会員数が多く、趣味の合う人を探せて、本人確認もあるので安心」→②+③+⑥の3項目

「検索がしやすく、価値観の合う人と実際に交際できた」→①+③+⑤

「料金が安く、操作も簡単」→⑤+⑨

「同世代が多く、結婚を考えている人も多い」→④+⑧

「会員数が多く、出会いやすい」→②

※②の理由を2つ述べているが、1人の回答者としておすすめしている理由は②の1種類であるため、②に複数計上するのではなく、全体で1件として扱う

5.あいまいな回答や推測の扱い

「おすすめです」「良かった」など具体的な理由が読み取れないものは無分類として扱う。「使いやすい」という記述は具体的な機能や操作に言及してなくても、回答自体が使いやすさを理由に支持していると捉え、⑤に計上する。また、同様の理由から「安心」は⑥への分類として有効票とする。

「出会いやすい」「マッチングしやすい」は、実際の出会いの経験や結果が書かれていない限り、①ではなく②に分類。「婚活に向いている」などは④への分類を優先する。

6. 判定手順

1. 回答文を「何を理由としているか」の観点で全文確認する
2. 実際の出会い、交際、結婚などの結果が書かれているかを確認する
3. 回答文がどの項目に分類できるか、どの要素が含まれているかを仕分ける
4. 明確に異なる理由が複数あれば複数項目にてカウントする
5. 同じ理由の繰り返しは1分類1件として扱う
6. 具体的な理由がない場合でも推測は行わない
7. 分類後、ルールと照らし合わせ一貫した判定になっているかを確認する

7. 集計方法と注意点

各分類の該当件数は、その分類に1回以上該当した回答者数として数えます。複数分類を許容しているため、件数の合計は回答者800人を超える場合があります。

割合を示す場合は、原則として「その分野にが応答した回答数÷全回答者数×100」で算出すること。この割合は、「その理由を挙げた回答者の割合」であるため、サービスの利用率や満足度、人気度や市場シェアを意味するものではありません。

自由記述の分類結果は、回答者が書いた理由の傾向を示すものであり、利用実態を直接示すものではありません。

新しいデータを追加する場合は、分類項目およびその定義、ルールに則った分析をすること。変更が必要になった場合は、変更前後のルールと適用範囲を改訂履歴として記録する。